

西尾市岩瀬文庫見学会

加藤直志

【抄録】 希望者を対象に、西尾市岩瀬文庫の見学会を実施した。当日は、学芸員や大学教授から、岩瀬文庫の紹介や古典籍調査についてのお話を伺ったあと、実際に同文庫が収蔵する古典籍の一部を手にとって閲覧させていただいた。文法中心の、通常の古典の授業では学べない、我が国の書物文化について伝えようとする企画であった。

【キーワード】 西尾市岩瀬文庫 古典籍 伝統的な言語文化

平成23年8月3日（水）、国語科の古典分野における特別企画として、西尾市岩瀬文庫見学会を開催した。事前に参加希望者を募り、当日は、中学1年生から高校2年生までの13名の生徒が参加した。

岩瀬文庫は、1908（明治41年）に、西尾市の実業家岩瀬弥助が設立した私立図書館が起源で、戦後西尾市の施設となり、現在に至っている。同文庫には、『後奈良天皇宸翰般若心経』（重要文化財）、『枕草紙』（岩波書店の日本古典文学大系『枕草子』の底本）をはじめとする貴重な蔵書が約8万冊収蔵されている。

同文庫では、平成12年度より、新目録完成を目指した悉皆調査を実施しており、筆者は学生時代にその調査に参加していた。その縁もあり、同文庫主査学芸員の林知左子先生、同文庫資料調査会会長で名古屋大学大学院文学研究科教授の塩村耕先生のご協力のもと、実現した企画である。

当日は、午前中に同文庫の紹介と古典籍についての基礎知識の解説、資料調査についての講話、昼休みを挟んで、古典籍の閲覧、と充実した内容であった。林先生の計らいにより、先述の『枕草紙』のほか、徳川家康旧蔵の漢籍や、生徒たちにも身近な場所が描かれた『尾張名所図会』、さらには、美しい絵巻物などを、生徒たちが実際に手に取って閲覧することができた。もともと古典文学や歴史などに興味、関心の強い生徒たちが多く参加していたこともあり、（くずし字で書かれているにも関わらず）大変熱心に古典籍に見入っていたため、予定を1時間以上オーバーしての見学会となった。

今回の見学会がきっかけとなり、日本文学や歴史学系統の学科への進学を考えるようになった生徒もおり、生徒達にとっては貴重な体験となった。来年度以降も、可能であれば同様の企画を続けていきたいと考えている。

参加した生徒の感想（一部）

行って、とても良かったと思った。

人間が言葉を紡ぎつけて、伝えたかったことに触れたのは貴重な体験となった。

文学から当時の日本が決して劣っていたのではなく、むしろ進んでいたということが、分かっているとは、新しい発見だった。

徳川家康の読んだ本に触れたとき、非常に興奮した。「あの家康が読んだものだ!!」と。違い歴史上の人物なのに、その人にまつわる物が目の前にあることは不思議な気もしたし、なんだか無性に嬉しくなった。

あの、実物を見る企画のときに出された本の中では化粧の本が一番気に入った。気に入ってしまった。歌舞伎役者の男性が書いているとは、とても説得力があり、内容もつい見入ってしまうものばかり。これは売れる！と当時の人ではないが、そう心の中で呟いてしまったほど。（高校2年生男子）

初め、この企画に参加しようと思った時は、あまり乗り気ではありませんでした。もともと私は古文などがあまり好きではなく、あまり興味がなかったからです。

しかし、行ってみて話を聞いてみると、とても面白く感じてきました。日本最古の印刷物や枕草子の写本など、興味をひかれる物が多くありました。また、卷子本など、本の形や印刷の歴史など、知らない事もたくさんありました。特に、活字印刷が江戸時代初期にあったことなどが驚きでした。

この日の見学で、一番楽しかったのは蔵書を見せてもらった事です。豆腐の調理法だけを集めた「豆腐百珍」や卷子本の形の絵巻物、江戸時代のまんがのような黄表紙など、江戸時代には面白い本がたくさんあったんだとわかりました。中でも一番私が気に入ったのは、江戸時代の博物図鑑「本草図説」です。うろこの一枚一枚まで細かく書き込まれた魚や、色あざやかなオウムなど1ページめくるとに驚きがありました。

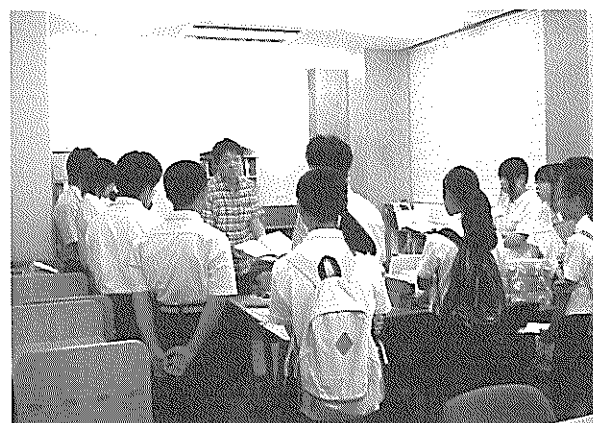
気がつけば4時ごろになり、帰る時間となっていました。やっぱりあの時間では全部見切ることが出来なかったのも、そのうち行く機会があれば、また読んでみたいと思いました。

昔の本を実際に見てみて、やっぱり難しいなと思いま

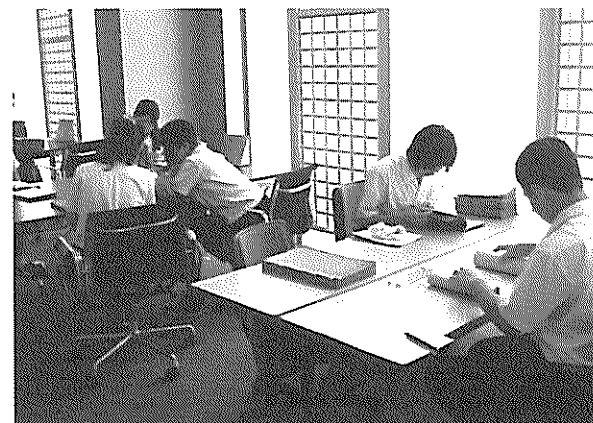
した。改めて、文庫の本のデータベースを作成している方々はすごいと思いました。私にとっては1行も読めないで、その内容を理解するなんて不可能に近いです。そんな風に思うほど、難しい本ばかりでしたが、それでも興味はひかれました。そのうち、読めるようになったらいいなと思っています。(中学2年生女子)



林学芸員による古典籍についての講義



塩村教授による学術調査についてのお話



実際に古典籍を手にとって閲覧中

平成23年7月1日
国語科・加藤直志

国語科体験学習 西尾市岩瀬文庫見学会のお知らせ

国語科では、古典分野における体験学習として、西尾市岩瀬文庫の見学会を企画しております。

西尾市岩瀬文庫は、明治41年に西尾市の実業家である岩瀬弥助が、本を通した社会貢献を志して創設した私立図書館として誕生し、戦後に西尾市に移管されました。『後奈良天皇宸翰般若心経』(重要文化財)、『本草図説』(愛知万博のポスターの図案のひとつ)、『枕草子』(岩波日本古典文学大系の底本)等、約8万冊の蔵書を保存・公開しています。

本物の古典籍に直接触れることができる貴重な機会です。参加希望者は、7月8日までに申込書を国語科加藤直志先生に提出してください。

1. 目的 (1) 古典籍の実物に触れ、教科書だけでは学べない、書物文化に親しむ。
(2) 愛知県が誇るべき文化遺産としての岩瀬文庫の存在を知る。
(3) 古典籍の学術調査について知り、科学的思考力を身につける。
2. 日時 平成23年8月3日(水) 午前9時～午後3時ごろ(移動の時間も含む)
3. 場所 西尾市岩瀬文庫(愛知県西尾市亀沢町480)
4. 内容 文庫学芸員による文庫紹介、古典籍見学
5. 対象 本校生徒のうち、希望する者
6. 引率 加藤直志
7. その他 参加人数にもよりますが、金山駅集合解散とし、現地での合流解散も可とする予定です
参加無料、ただし交通費は実費(金山—西尾 片道710円)

-----きりとり-----

8月3日(水)の岩瀬文庫見学会への
参加を希望します。

中学・高校()年()組()番
氏名()
保護者名()

※国語科加藤直志先生に提出してください。

持ち物・服装

制服着用、昼食(近隣の飲食店やコンビニを利用してもよい)、道中暑いかもしれないので飲み物、筆記用具、交通費(片道710円+自宅から金山まで)

その他

当日、急病などで欠席する場合は、8時30分までに学校に電話してください。

台風接近などの際にはやむをえず中止する場合があります。その場合は、ご自宅にお電話させていただきます。

西尾市岩瀬文庫見学会参加者の皆様へ
国語科・加藤直志

当日のタイムスケジュール

- 8:50 集合(時間厳守でお願いします!)
名鉄金山駅中央改札口
- 9:09 金山駅発 特急(一部特別車)豊橋行き
9:29 新城着
9:37 新城発 普通西尾行き
9:58 西尾口着
徒歩(暑いかもしれないので飲み物持参がよいかも)
- 10:15 岩瀬文庫着
10:15~11:30 館内案内(学芸員 林知左子先生)
- 11:30~11:45 資料調査についての解説
(名古屋大学大学院文学研究科教授 塩村耕先生)
※塩村先生とは日程を調整中です。場合によってはお会いできない場合もありますので、ご了承ください。
- 11:45~13:00 昼食休憩
(周辺の飲食店へ行く、お弁当を公園で食べるなど自由行動)
- 13:00~14:10 閲覧室で資料閲覧
14:10 岩瀬文庫出発
徒歩
14:42 西尾口発 普通新城行き
15:02 新城着
15:12 新城発 特急(一部特別車)岐阜行き
15:33 金山着
解散